
「す・き」

篠崎優砂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「す・き」

【Nコード】

N2735F

【作者名】

篠崎優砂

【あらすじ】

「すき」本当に好きな人にこの言葉は言えない。いつも押し黙ってしまふもどかしいような…甘い気持ちを…今もう一度ください。

プロローグ（前書き）

もしよければコメントください

プロローグ

「死んじゃえばいいのに…。」

あたしは唇を強くかんで八つ当たった。

ふと大輝を見ると、何かいいたそうだった。

「あの…さ…。」

大輝は目を閉じて、また黙ってしまった。

その言葉の意味は？

過去を振り返って…未来をつないで…やっとわかった。

プロローグ（後書き）

いつか大好きな人にこの小説が伝わればいいと思います。
よんでくださりありがとうございます。

第二話：傷！？（前書き）

優砂と卓也の出会いのシーンです！
ちよっとじれったい！？

第二話：傷！？

「Y u u s a」

あたしだつてこんなに傷つきたくない。

「塾変えたつてお前馬鹿なんだから。」

「きもいなあ！近づくなよ！」

友達に本当に数えるほどしかない。

またあたしは…涙を流す。

でも…次の塾では。

無駄に足音を響かせて、あたしは真っ白いビルの前にたつた。

そして教室の場所を確認する。

一枚の板がすごく厚く感じる。

…あたしはドアノブにてをかけた。

「T a k u y a」

おそるおそる教室をのぞく、二つの大きな目と焦点があつた。

…見慣れない顔。

誰、だろ？

僕は何にも気づいていないふりをして目をそらした。

しかし、ほんの数秒後またその子は僕の視界に入った。

肩まで伸びた髪の毛とひらひらしたスカート揺らしながら…僕の

二つ前の席にゆっくりと座った。

すっごくのほほんとしてる。

この子は…いじめの世界とか知らないんだろうな。

僕は少しため息をついて、顔を伏せた。

「Y u u s a」

あたしはドアをゆっくりと開けた。

もしかしてかつこいい人いないかな？とか期待する余裕は本当に少ししかなかった。

その前にいじめられないかな？っていう不安があった。

しかし…そんな不安は三秒後にまったくなくなった。

まじめそうな人しかいなかった。

いじめとか…する暇なさそうな人ばかり！

少しずつほおが緩んでいく。

教室を影から見ると、そのうちの一人…もっともまじめそうな男子と目があった。

ぴき…っと体が固まった。

するとその男子は「お前になんか興味ない。」というように目をそらす。

「ホウツ…」

よかった。いじめられる要素〇・一%もないじゃん。

あたしは鼻歌交じりでふんわりと自分の席に座った。

第二話：傷！？（後書き）

コメントお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2735f/>

「す・き」

2011年2月2日14時21分発行